

関東・東北豪雨で被災した常総市の 危機管理監と意見交換等を行いました！

～第4回『揖保川減災対策協議会』を開催～ 姫路河川国道事務所

本協議会は揖保川において、堤防決壊等に伴う大規模浸水被害に備え、沿川市、河川管理者である国、兵庫県等が連携・協力して、減災のための目標を共有し、ハード対策とソフト対策を一体的、計画的に推進することにより、揖保川において氾濫が発生することを前提として**社会全体で常に洪水に備える「水防災意識社会」を継承・再構築する**ことを目的としています。

第4回協議会では、常総市 防災危機管理課 危機管理監による「平成27年9月関東・東北豪雨災害の教訓とその後の取組事項」を講演いただき、意見交換を実施しました。また、平成29年度の各機関の取組内容を共有しました。

概要

- 日時：平成30年 5月15日（火）15：00～16：30
- 場所：太子町役場 3階ホール（災害対策室）
- 参加者：姫路市長（代理）、宍粟市長、たつの市長、太子町長、兵庫県中播磨県民センター県民交流室次長、姫路土木事務所長、西播磨県民局総務企画室長、龍野土木事務所長、神戸地方気象台長、姫路河川国道事務所長、常総市防災危機管理課危機管理監



講演概要

- 【講演内容】
- ・ 平成27年9月の鬼怒川の大水害時における常総市の被害状況と水害対応・課題について
 - ・ 鬼怒川の水害時の被害状況や水害対応の教訓を踏まえた、常総市における大水害に対するハード及びソフトの取組みについて

【常総市危機管理監との意見交換】

- Q 災害が起きた場合の対応と計画上の対応は異なる。その差異をどのように埋めればよいか。
A 平時からの体制づくりが重要。図上訓練が最も効果的。他には地域防災計画の見直し。
- Q 避難の観点での他の自治体との連携はどうすればよいか。
A 県が統制しつつ、近隣自治体といっしょに取り組むべき。
- Q ホットラインを出すタイミングは市と国で調整しているのか。
A タイムラインによって危険度の低いレベルから高いレベルまで調整が図れるようになった。
- Q マスコミ等の市の災害対策本部部外者との具体的な関わり方・対応はどうすべきか。
A 状況により、報道をある程度統制する必要があるため、担当窓口を決め定期的な情報発信を行うことが望ましい。



常総市防災危機管理監による講演

各機関の取組

- 宍粟市：自主防災マップの作成のための講習会の開催と作成／ふれあいミーティングの実施／タイムライン(案)の検証
- たつの市：地域防災リーダー育成講座の実施／想定最大規模程度の大雨による洪水ハザードマップの検討・作成
- 姫路市：小学生を対象とした水防教室／市民向け水害チラシの作成・配布
- 太子町：小学生を対象とした防災関連体験授業の実施
- 県：重要水防箇所の共同巡視
- 国：氾濫箇所予測システムの構築／水防資機材共有資料の作成



常総市防災危機管理監との意見交換

【問い合わせ先】

国土交通省 近畿地方整備局
姫路河川国道事務所 調査課
〒670-0947
姫路市北条1-250
TEL 079-282-8211

